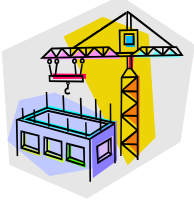


どんなところで「メリ(減り)とハリ(張)」をつけたのか (後編)

前

号ではメリハリの「ハリ(張り)」のことを紹介しましたが、一般財源全体が緊縮しているのですから、どこかで「メリ(減り)」をつけなければ予算編成はできません。つまり、**スクラップ&ビルド**です。そこで、平成15年度には予算化されていたが、平成16年度には予算化しなかった事業には、どのようなものがあるかということを紹介しておきます。



平

成16年度予算において予算化しなかった事業は69事業です。その平成15年度当初予算額の合計は約6億2百万円でした。言い換えれば、**平成16年度には、事業の完了や休廃止等によって6億円以上の予算削減を行った**ということになります。

予

算化しなかった理由は大きく7つあります。事業が完了したために予算化されなかった事業(28事業 約5億円)、他の事業と統合したために予算化されなかった事業(11事業 約3千2百万円)、緊急性を勘案して後年の実施に回した事業(2事業 約1千8百万円)、経費節減や公益性等を勘案した各部の判断により予算化しなかった事業(2事業 約2百万円)、予算化していないが人件費により実施する予定の事業(16事業 約3百万円)、繰越明許により実施する事業(2事業 約2千9百万円)、その他の事情等(民間団体への事業移管等)により予算化しなかった事業(8事業 約1千8百万円)です。これらのうち **は、担当部局の創意工夫による費用削減努力の結果である**ということが出来ます。その合計額は約2千3百万円となります。

予

算編成について、第18号から5回にわたって紹介してきました。今後も厳しい財政状況は続きます。厳しい財政状況を乗り切るためのキーワードのひとつに「行政評価」があります。事業予算や人件費を使って、何をどれくらい行い、どのような成果を挙げたのか。また、その成果について市民がどのような評価をしているのか。それをよく把握することが必要です。**そのキーワードは、「納得度」**。次回からは数回にわたって、「行政評価」に対する私たちの考え方を紹介してまいります。

